

# 加 佐

学校教育目標

『 仲間とともに 夢と希望をはぐくみ 学びあい 認めあい 鍛えあう生徒の育成 』

学校だより 5月号  
平成29年5月1日  
舞鶴市立加佐中学校



TEL 83-0004 FAX 83-3201

E-mail kasa-jhs@kyoto-be.ne.jp

## いま見えているものの不確かさ？

左の図で縦線と横線では、どちらが長く見えますか？実際は、どちらの線も同じ長さですが“垂直水平錯視”（錯視とは目の錯覚）と言って垂直線（縦線）の方が、水平線（横線）より長く見えませんか。この錯視の不思議を発端に股のぞきの研究を進めた日本人に、昨年イグノーベル賞が与えられました。イグノーベル賞とは、ノーベル賞のパロディで、人々を笑わせると同時に考えさせる業績を称えるものです。

本校が目指す生徒像  
知；真面目に考え判断力のある子  
徳；思いやりを持って助け合う子  
体；健康でたくましく行動する子

ここ10年連続で、日本人がもらっています。股のぞきでをして見ると直立で見るとより遠い物を小さく感じ、距離は近くの物が実際よりも遠くに見え、遠くの物が実際よりも近くに感じます。この股のぞき効果の理由を調べるために、180度視野が回転する「逆さめがね」を直立と股のぞきのそれぞれの場合で掛けて調べました。すると「逆さめがね」を掛けて股のぞきをするときだけ、股のぞき効果が表れました。これにより股のぞき効果が表れるのは、身体の上逆転が原因で、いつもの姿勢を崩すと普段通りに物が見えなくなると分かったのです。日本三景の一つである股のぞきで有名な天橋立も奥が深いものです。しかし、同じ風景も見方によって違って見えるとは教訓的です。例えば、大人が見ている子どもの内面は、真実を正しく捉えているのか、少しずれているのかは疑ってかかる必要があります。少なくとも、子どもをみたとき、それが全てその子の本質ではなく、違った角度からみれば、今までとは違ってみえたりして、それもその子自身だと捉えるべきなのでしょう。



## パソコンの入換で感じた懐かしさ

先日、市から貸与されている教職員のパソコンの入換がありました。午前中で新しいものに入れ替わったのですが、その間パソコン無しの仕事となりました。今、学校が提出する書類等は、パソコンで作成します。字が上手でない者にとってパソコンは、有難い道具です。昔、教師になりたての頃、テスト問題は、誰もがほとんど手書きで作っていました。ある理科のテストで生徒が真面目な顔で「先生“さんし”て何ですか？」と質問しました。私の手書きの字が読み取れなかったのです。軽いショックを受けたので、次からのテストはタイプライターで作るようにしました。タイプライターも早く打てるようになった頃にワープロが世に出て使うようになり、その後パソコンに切り換わり、今まで使っています。ただ手書きの時代、生徒がペン習字の申込用紙を用意してくれ、パソコンの無かった時代が、今は便利だけにふと懐かしくなりました。ちなみに生徒が“さんし”と呼んだのは“ろ紙”でした。トホホ・・・



校長 山口 茂  
教職員一同